

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

非住宅対応 CAD 研修も好評

— 平成 27 年度 CAD 技術者研修実施 —

当協会は、非住宅、とりわけ施設系中規模木造建築物に対応したプレカット CAD 技術者研修を、平成 28 年 2 月 23 日 (火)、24 日 (水) に東京都江東区新木場 木材会館 7 階ホールにおいて受講者 47 名 (うち会員工場からの参加者数 30 名 以下同じ) の参加のもとに実施しました。

住宅着工数の減少が見込まれる中で、非住宅分野の木造化が注目されていますが、非住宅においては、四号建築物には適用されない法的規制等があることから、受講者は、既に、四号建築物のプレカット加工図を独力で CAD 入力ができ、これに関連する木質材料、木質構造、関連法規等について熟知していることを前提に講義を行いました。

このため、受講資格として、当協会のプレカット CAD 技術者基準に基づいて、プレカット CAD 技術者 2 級以上に登録されている者とし、1 事業所当たりの参加者は 2 名以内としました。今回の研修日程は講義内容の充実を図るため 2 日間とし、カリキュラム及び講師は、①施設系中規模木造建築物とプレカット (講師：オプコード研究所 野辺 公一 氏)、②施設系中規模木造建築物の構造計画 (講師：山辺構造設計事務所 山辺 豊彦 氏)、③施設系中規模木造建築物と関連法規、施設系中規模木造建築物における木材の知識 (講師：ものづくり大学 教授 小野 泰 氏)、施設系中規模木造建築物の構法・構造の考え方 (講師：村上木構造デザイン室 村上 淳史 氏) にお願しました。

一方、四号建築物を対象とした 1～3 級コースは、1 級コース：東京 (木材会館) 3 月 3、4 日、参加者数 18 名 (10 名)、2・3 級コース：東京 (木材会館) 1 月 26、27 日、参加者数 2 級 53 名 (24 名)、3 級 6 名 (2 名)、名古屋 (名古屋木材会館) 2 月 4、5 日、参加者数 2 級 41 名 (15 名)、3 級 9 名 (5 名) で実施しました。

講義修了後、研修内容の理解度を確認することを含めて考査を行い、考査結果が基準点以上の研修修了者においては、申請によりプレカット CAD 技術者認定登録を行うことができます。

これからも、地域の一般流通材を使用した各種木造建築物生産のために、プレカット加工業の関与は深まります。CAD 技術者の充実、性能の確かな木造建築物を供給を通じて会員の皆様の工場が地域の中核としてご活躍いただくための重要なポイントですので、今後も、これらの研修への積極的なご参加をお願いいたします。



講義を行なう小野先生

平成 28 年度事業計画及び収支予算を承認

— 平成 27 年度第 2 回理事会開催 —

当協会は、3月16日（水）に平成 27 年度第 2 回理事会を永田町ビル 4 階大会議室において開催しました。

理事会の冒頭、原田会長から、「我が国経済は、アベノミクスの推進により、景気は好転しつつあったものの、今年初めから中国を初めとする新興国の経済の減速化や原油安等が我が国経済に影響を及ぼしており、このところ落ち着きを取り戻したとはいえ、景気の足踏みがみられる状況になっている。プレカット加工業の業況に関連が深い新設住宅着工戸数の動向をみると、平成 27 年は、90 万 9 千戸と前年に比べて +1.9% になっており、消費税率引き上げに伴う需要変動の影響は薄らぎつつあると思われる。このようなことから、プレカット加工業の業況は、地域的な差異はあるもの比較的堅調な動きであったが、競争条件の激化により依然として加工単価は低迷を続け、また、国産材の出材の遅れや円安の影響から資材価格の上昇分の価格転嫁が難しい状況になった。今後、木造住宅市場の縮小が懸念される中で、木造建築物の新たな需要分野として、一般流通材を使用した店舗・事務所等の非住宅木造建築物が注目されている。当協会では、このような需要分野の変化に対応するため、プレカット加工業としての関わりを技術面、業務面から支援し、新たな分野への対応を進めていきたい。」旨の挨拶がありました。

議事においては原田会長が議長を務め、まず、「平成 28 年度事業計画（案）及び平成 28 年度収支予算（案）」について事務局から提案説明され承認されました。引き続き、「平成 27 年度事業の遂行状況」について事務局から説明があり、この中では、従来から実施している普及事業、調査事業等の他、技術支援事業として「プレカット CAD 技術者基準」に基づくプレカット CAD 技術者研修（1 級～3 級）の実施とプレカット CAD 技術者認定登録の状況、また、施設系中規模木造建築物対応 CAD 技術者研修の実施状況が説明されました。一方、業務支援事業としてプレカット部材共済会が実施している瑕疵保証の対象として新たに店舗・事務所等の非住宅物件を追加したことも紹介されました。

なお、今回の理事会で承認された「平成 28 年度事業計画及び平成 28 年度収支予算」は、6 月 15 日（水）に開催される第 6 回定時社員総会（会場：スクワール麹町 東京都千代田区麹町 6 - 6）に報告されます。

「木材利用」の意義と効果の見える化を広めよう

— 第 7 回「新たな木材利用」事例発表会開催される —

一般社団法人全国木材組合連合会と木材利用推進中央協議会は、共催で 2 月 18 日（木）に東京都江東区新木場の木材会館 7 階ホールにおいて、第 7 回「新たな木材利用」事例発表会を開催しました。この発表会には、木材関係者、設計関係者等、250 名の参加があり、木造建築の意義や木材の新分野への利用について関心の高さをうかがわせるものになりました。

事例発表の第 1 部においては、「快適でコストも安い公共木造事例」について、国立研究開発法人森林総合研究所木質構造住環境研究室の恒次祐子氏が建築物の木質化によるリラックス効果を説明し、また、埼玉県杉戸町役場の渡辺景己氏は公共施設の建て替えに一般流通材でトラスを計画する等によりコストダウンしたことを事例説明されました。

また、第 2 部においては、「木材を使った街づくり」事例とその評価について発表が行われました。まず、静岡県木材協同組合連合会副会長の滝波龍司氏が新東名高速道路の木製遮音壁を紹介し、次に、飛鳥建設（株）の沼田淳紀氏が丸太による地盤改良を紹介しました。この他、中大規模木造建築物への対応として、（株）松本設計の松本照夫氏が一般流通材を使って建てる高齢者施設等の紹介、（株）織本構造設計の山口健二氏がスギ B P 材（スギ東ね重ね材）を使用した大規模木造建築物について紹介しました。

これらの事例発表を通して、木のある生活が心と体に安らぎを与え、中大規模木造建築物がコスト面でも有利であることが広く普及するよう期待されています。

平成27年 協会会員工場基礎調査結果について(第1回)

— プレカット加工用資材の材種別使用状況 —

平成27年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材等の使用割合について集計、分析を行いました。(調査工場数:38工場)

国産材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	26	3	18
11～20	4	3	4
21～30	6	2	3
31～40	1	3	2
41～50	1	3	2
51～60	0	7	1
61～70	0	5	2
71～80	0	2	3
81～90	0	7	0
91～100	0	3	3
平均使用率(%)	11.9	57.7	30.4
中央値(%)	10	60	20
(平均使用率(%))	(12.1)	(57.9)	(30.0)
(中央値(%))	(10)	(60)	(20)

輸入材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	33	2	3
11～20	4	6	3
21～30	0	3	5
31～40	0	6	8
41～50	0	4	2
51～60	1	9	7
61～70	0	4	2
71～80	0	2	5
81～90	0	1	2
91～100	0	1	1
平均使用率(%)	6.1	46.2	47.7
中央値(%)	3	50	40
(平均使用率(%))	(7.6)	(42.9)	(49.5)
(中央値(%))	(10)	(50)	(45)

◇簡単なコメント

1. 国産材においては、グリーン材、KD材、集成材等の平均使用率は前回調査時に比べて特徴的な動きはみられない。グリーン材の平均使用率は、依然として輸入材の倍近いものになっているが、長期的なトレンドとしては低下傾向にあり、安心・安全な住宅を供給するために重要な役割を果たす品質の確かな資材の選択は進んでいる。
2. また、輸入材においては、KD材の平均使用率は46.2%で3.3ポイント上昇したが、集成材等の平均使用率は47.7%と1.8ポイント低下し、前回調査時とは逆の動きになっている。最近の集成材産地国での生産体制の動向や主として柱材等に使用される国産材との材種間の競合もあって、需給関係に変動が生じたのも一因と思われる。

プレカット業況調査(平成28年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 58%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	12	42	46	- 34	+ 29
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	46	42	12	+ 34	- 55
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,080 円(対前回調査+10 円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	100	0	0	+ 3
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	94	3	0	- 10
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	24	64	12	+ 12	- 13
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	12	73	15	- 3	- 10
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	3	58	39	- 36	+ 19
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	46	42	12	+ 34	- 42

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成27年11月

◇簡単なコメント

2月の各設問のDIをみると、受注額、収益は悪化しているが、3ヵ月後には改善すると予測されている。一方、このような中で、加工単価については、3ヵ月前には低下するとみられていたが現状維持となった。また、資材の入手環境は、受注減や円高の影響もあって軟化しているが、春の訪れとともに業況の好転に伴いタイト感が現れるであろう。今後、住宅ローン金利の引き下げへの動き、そろそろ始まりそうな駆け込み需要が春需の後押しとなることを期待したい。

1. 受注額のDIは-34で前回調査時(平成27年11月期)に比べて大きく悪化しており冬場の不需求期の厳しさを反映している。このような中で、3ヵ月後の予測のDIは+34と好転が期待される。今後、春の訪れが業況の活性化をもたらすであろう。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは0であり、これを反映して、平均総加工単価は6,080円と3ヵ月前に比べて10円上昇したが横ばいの範疇といえるであろう。一方、3ヵ月後の製品加工単価のDIも0で、受注量が増加すると見込まれる中で加工単価の上昇は期待薄であるということは厳しい現状といえるであろう。
3. 資材入手状況のDIは+12で、一部品目では生産調整もあったが円高の進行や受注減により軟化している。また、3ヵ月後の予測は-3であり、今後の受注増の見通しを反映している。
4. このようなことから、3ヵ月前と比べた収益のDIは-36で、前回調査時の3ヵ月後の収益予測である-42に沿うものとなった。一方、3ヵ月後の収益予測は+34と大幅に改善するものとみられ、これを足がかりに全国的に業況が回復することが待たれる。